

# 1 西部地域（安宅・牧）

## 1. 地域の現況

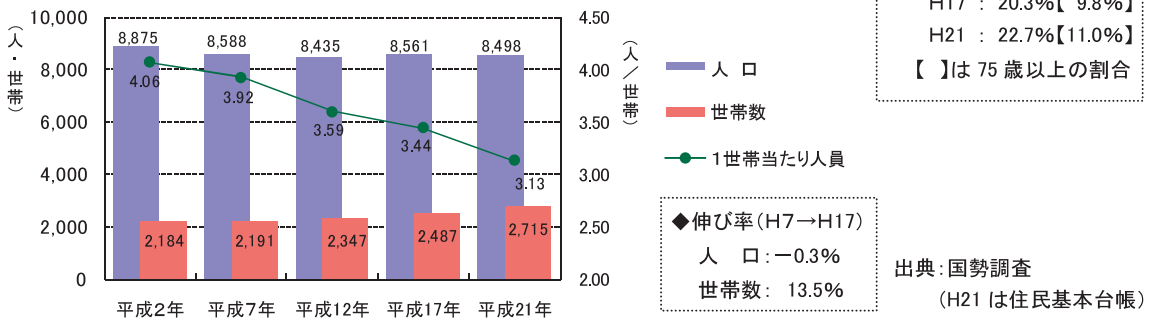
- ・本地域は、安宅校下と稚松校下の牧地区からなり、本市の西部に位置し、北は能美市、南は加賀市と接している。
- ・本地域は、小松空港、北陸自動車道小松IC等の交通結節点を有し、本市の玄関口として位置づけられる。
- ・日本海に面し、地域の中央を東西に梯川が流れ、海岸沿いには松林が続くなど、自然環境が豊かである。
- ・地域内の7割強が市街化調整区域となっており、市街化区域内は住居系と工業系の用途が占めている。
- ・平成17年現在の人口は8,561人で、近年は横ばい傾向にある。また、世帯数は2,487世帯で、緩やかに増加している。

位置図

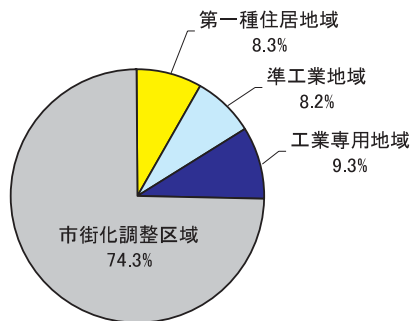


●基礎データ		都市計画区域内に占める割合	都市計画区域内の平均	備考
面積 (ha)	1,080	8.8%		都市計画基礎調査値
人口 (人)	8,561	8.2%		H17国勢調査値
世帯数 (世帯)	2,487	7.2%		"
人口密度 (人/ha)	7.93		11.19	
平均世帯員数 (人/世帯)	3.44		3.02	
高齢化率 (%)	20.0 【 9.6】		19.8 【 9.4】	H17国勢調査値
【 】は75歳以上の割合 (%)	21.8 【10.2】		21.9 【10.7】	住民基本台帳(H21.4.1)

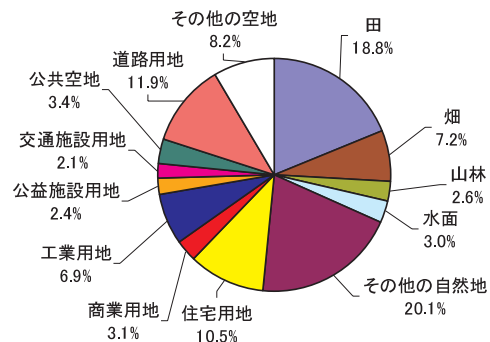
### ●人口・世帯数の推移



### ●区域区分・用途地域

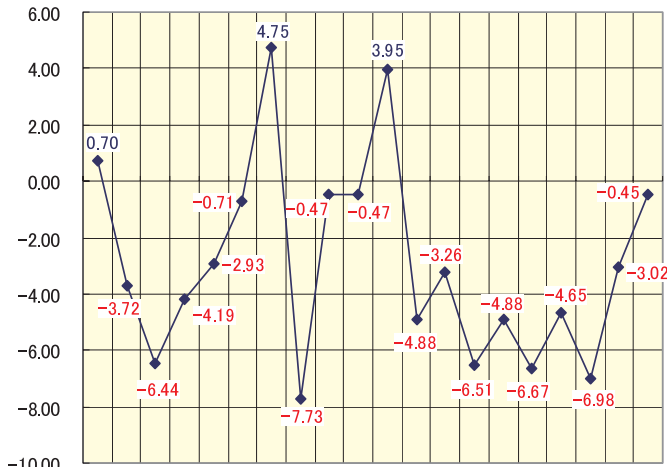


### ●土地利用



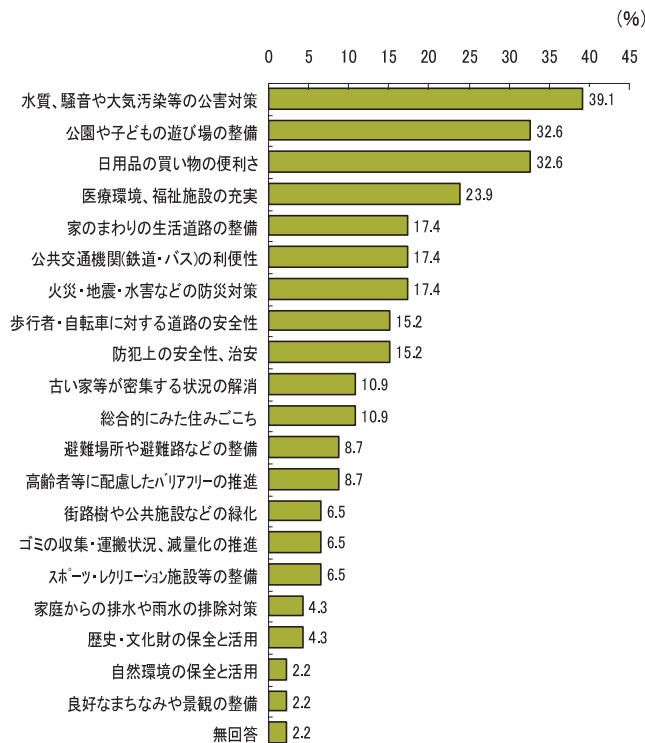
## 2. 住民意向調査結果

### ●生活環境の満足度



総合的にみた住みごころ  
防犯上の安全性、治安  
高齢者等に配慮したバリアフリーの推進  
古い家等が密集する状況の解消  
医療環境、福祉施設の充実  
日用品の買い物の便利さ  
避難場所や避難経路などの整備  
避難場所や避難路などの整備  
良好なまちなみや景観の整備  
歴史・文化財の保全と活用  
自然環境の保全と活用  
水質、騒音や大気汚染等の公害対策  
ゴミの収集・運搬状況、減量化の推進  
家庭からの排水や雨水の排除対策  
街路樹や公共施設などの緑化  
公園や子どもの遊び場の整備  
公共交通機関(鉄道・バス)の利便性  
歩行者・自転車に対する道路の安全性  
家のまわりの生活道路の整備

### ●さらに住みよくなるために重要なこと



### ●具体的なまちづくりの方策について

#### ◆道路交通網の整備について重要だと思うこと

歩道の整備や安全な通学路の確保

#### ◆公園・広場の整備について重要だと思うこと

子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園や広場の整備

#### ◆まちなみ景観について重要だと思うこと

歴史的なまちなみの保全や歴史的な景観の整備

#### ◆防災対策について重要だと思うこと

狭い道路を広げ、避難路となる道路網の整備

#### ◆環境対策について重要だと思うこと

騒音・振動・悪臭などの公害対策の充実

#### ◆市街地の整備について重要だと思うこと

商店街の活性化や便利で利用しやすい商業地づくり

#### ◆JR小松駅周辺の整備や取り組みについて重要だと思うこと

駅周辺の商業機能の強化や商店街の魅力向上

#### ◆まちづくりにおける市民の役割について

自分の住んでいるまちや地域に関心を持つこと

#### ●若者が小松市に住み続けるために必要なこと(中学生の回答)

CD・ビデオショップ、書店など、若者の情報が得られる施設があること

#### ●小松市で自慢できるもの(中学生の回答)

子ども歌舞伎など、伝統文化が今も受け継がれていること

### 3. 地域の特性と課題

#### 〔特性〕

- ・安宅校下は、勸進帳で知られる安宅の関が置かれた場所であり、また、藩政期には北前船の寄港地として栄えた。地域内には、安宅の関等の歴史資産や船問屋等の歴史的街並みが残り、面影を伝えている。
- ・高速交通網に近接しているという好立地条件を活かし、小松工業団地の整備をはじめ、小松空港周辺や小松IC周辺において開発が進められている。
- ・海岸部には、安宅海水浴場や安宅海浜公園、安宅漁港等が点在している。

#### 〔課題〕

- ・小松工業団地、小松IC周辺において、産業拠点の形成など、交通結節点に近接した立地条件を活かした土地利用を展開していく必要がある。
- ・小松工業団地、小松IC周辺は、産業拠点として、周辺環境に十分配慮した基盤整備と施設誘致を進め、良好な工業地環境の形成を図る必要がある。
- ・小松空港周辺において、航空機の騒音等の環境対策や住宅地の居住環境向上に向けた取り組みを推進していく必要がある。
- ・安宅町の歴史的街並みの保全と景観形成を図りつつ、居住環境や防災機能の向上に資する基盤整備を図る必要がある。
- ・一般住宅地についても、安全な道路整備や公園・広場の確保、建築物の耐震化促進等により、居住環境や防災機能の向上に努める。
- ・公共交通や地域商業環境の充実等により、日常の買い物の利便性向上を図る必要がある。
- ・白砂の海岸線や松並木など海岸部の良好な自然環境の保全や梯川の親水性向上を図るとともに、水辺や公園・緑地の環境美化等により、うるおいのある美しい地域環境の形成を図る必要がある。
- ・安宅の関所跡などの歴史的な資源の保全と活用を図る必要がある。

## 4 . 地域のまちづくりの方針

### 4-1 . まちづくりの目標と基本的な考え方

〔まちづくりの目標〕

海浜の自然と陸海の要所としての歴史に  
育まれた、工業拠点や広域交通を活かしたまち

〔基本的な考え方〕

本地域は、歌舞伎「勸進帳」で全国に知られる安宅の関や北前船の寄港地として栄えた住時を偲ばせる歴史的街並み等が残り、歴史・文化の薫り高い地域である。

また、市内で唯一、海岸部に接しており、美しい海岸線や松林が続いている。

さらに、小松空港や小松IC等の交通結節点を有し、これらの特性を活かした産業拠点の形成がなされてきた。

こうした特性を踏まえ、本地域においては、豊かな自然環境と歴史・風土を保全・継承しつつ、これらを活かした個性豊かな地域づくりを推進するとともに、交通結節点機能を活かした広域交流を推進する土地利用や工業拠点性の向上を図り、居住環境の充実・向上にも配慮した安全で住みよい地域づくりを推進するものとする。

海浜の自然環境、歴史文化資源の保全と活用による個性豊かな地域づくり  
広域交通拠点性を十分に活用した地域づくり

### 4-2 . 地域整備の方針

(1) 土地利用の方針

安宅町の歴史的な街並みが残る市街地一帯は、歴史的な建造物の保全と活用を図るとともに、建替え時のデザインルール（コントロール）や修景を図り、歴史的な面影を残す住宅地の形成を目指す。

梯川の河川改修にあわせて面整備された上牧地区において、良好な住宅地の形成を促進し、地区計画制度による居住環境の保全、形成を図る。

基地騒音第2種区域内の居住環境の改善策として、集団移転事業が実施された安宅新町、下牧町一丁目の新しい住宅地において、良好な居住環境の維持・形成を図る。

(都) 空港軽海線、(都) 高坂城南線、(都) 小松インター八里線沿線は交通アクセスの利点を活かした沿道サービスゾーンとして、沿道型の商業サービス施設の立地を図る。

小松空港正面の一帯は、空の玄関口にふさわしい景観づくりを図るとともに、立地条件を活かした施設整備について検討する。

小松工業団地は、これまで順次拡張整備がされてきており、今後も周辺環境に十分配慮しつつ、良好な工業地の充実を図る。

小松IC周辺においては、産業拠点としての施設の立地を図るほか、物流系施設の集積を図る。

小松インター西地区は、能美市山口地区とあわせて一体的に整備がされてきており、地場産業（軽工業）と住宅地との共生を進める。



小松工業団地

小松市唯一の漁港である安宅漁港は、水産物の水揚げ拠点であるとともに、新鮮な地元食材を提供する場として、周辺地域の活力や魅力づくりを目指す。

梯川右岸、梯川と前川に囲まれた地域及び（都）木曽街道線と北陸自動車道の間の優良農地は、田園環境の保全や白山眺望の維持のため、保全に努める。



安宅漁港

## （２）交通施設整備の方針

小松空港の利用促進、活性化が求められており、空港施設の整備や路線の拡充を推進し、空の玄関口としての機能充実を図る。また、JR小松駅との連絡の強化を図る。

北陸自動車道安宅スマートICの利用を促進するとともに、周辺における双方向ICの検討を行い、小松空港や小松工業団地等へのアクセス強化や利便性向上を図る。

南加賀地域と金沢港を結ぶ沿線には工業団地が多数立地しており、今後両地域を結ぶ道路の重要性が益々高まることから、沿岸部の物流ネットワークの強化について広域構想とあわせて検討を行う。（中南、南西地域と共通）

（都）木曽街道線の小松工業団地付近において朝夕の渋滞が顕著なため、機能強化し渋滞解消を図る。安宅町の（都）木曽街道線については、一部区間が狭小であることから快適性、安全性が損なわれている。整備の段階においては、住吉橋の架け替えが必要なことから、地区防災や街並みづくりの観点から整備のあり方について検討し、事業を行っていく。

また、住宅地内の狭隘道路の改善や通学路の整備充実、バリアフリー整備を推進し、安全な道路空間の創出を図る。



小松空港

### (3) 公園・緑地整備の方針

歴史資源を活かした安宅公園や海岸部の安宅海浜公園において、既存施設の整備充実に努め、利用者に一層親しまれる公園づくりを推進する。

既存の公園と海岸の松林、農地の緑、河川緑地等を結ぶ水と緑のネットワークの形成を図る。

前川沿いの遊歩道の整備充実に努めるとともに、周辺の眺望・自然・歴史文化を活用したウォーキングネットワークの形成を図る。(中南、南西地域と共通)



安宅の関

### (4) その他の施設整備の方針(河川・下水道等)

梯川の河川改修を促進するとともに、水質浄化や河川の環境美化を推進し、親水空間の向上やうらおいのある景観形成を図る。(梯川沿川地域共通)

下水道については、順次整備を進めてきており、今後は効果的な財源活用等を図るため、効率的な汚水処理を検討しながら梯川左岸の未整備区域の整備を推進し、良好な居住環境の形成を図る。また、下水道の接続向上については、戸別訪問、PR活動や普及促進サポーターとの協働により、一層の普及促進を図る。

建設中の小松加賀広域斎場は、小松市、加賀市の広域共同施設として整備を推進するとともに、施設の充実に努める。



小松加賀広域斎場の整備イメージ

### (5) 自然環境保全及び都市環境形成の方針

安宅海岸については、人口リーフによる砂浜の復元や松林の保全等が進められており、今後も白砂の海岸線と松並木の保全を図る。

梯川、前川等の水環境の改善に取り組んでおり、今後もこれらの河川の環境美化や海岸漂着ごみ対策を継続し、美しい水辺の確保に努める。

小松空港周辺において、航空機の騒音対策を推進するとともに、移転補償跡地の有効活用を検討する。

小松工業団地周辺において、騒音や振動、悪臭等の公害発生を未然に防止し、良好な地域環境の形成を図る。



安宅海岸・クリーンビーチ

## (6) 都市景観形成の方針

安宅海岸から臨む日本海や梯川河口、小松空港周辺からの白山の眺望景観は、本市を代表する景観資源であり、これらの景観の保全と眺望ポイントの整備を推進する。

海岸線の松並木を保全するとともに、官民一体となった海岸美化活動等により、海辺景観の向上を図る。

小松空港や小松IC周辺において、本市の玄関口にふさわしいグレードの高い魅力ある景観づくりを図る。

また、屋外広告物の集約を図るなど美観形成に努める。

小松空港上空からの眺望を考慮し、空港周辺の建築物の屋根や外壁等においては、奇抜な色彩や形状を避けるとともに、資材の野積み等で美観を損なわないようにするなど、景観阻害対策に努める。(南西地域と共通)

安宅町の歴史的街並みの魅力向上を図るため、街並みや歴史的な建造物の保全と活用を図り、歴史的な面影を残す街並みの連続性に配慮した景観形成を推進する。

## (7) 都市防災の方針

安宅町の住宅密集地において、安全な避難場所や避難路の確保をはじめ、狭隘道路の改善やポケットスペースの確保、建築物の不燃化・耐震化等を推進し、地域の防災基盤の充実を図る。また、公共建築物や災害時の避難場所等となる施設の耐震化を促進する。

西部地区体育館、ふれあい健康広場及び小松加賀広域斎場において、災害時に避難・救援拠点として機能するよう、施設の整備充実や機能強化を図る。

